

「十三」

令和6年度 第5号

気付く力

校長 狩野 美智代

十三中学校の学校教育目標である「心豊かでたくましい生徒の育成」に向けて、今年度の目指す生徒像の一つに「進んで働く生徒」を掲げています。本校の生徒の大半は、仕事や手伝いをお願いすると快く引き受けてくれるとともに、係活動や委員会活動で分担された仕事にも誠実に取り組んでいる様子がみられます。この素直でまじめな面を大切にして行なって欲しいと思いますが、学校教育に求められる「社会で生きていくための資質・能力の育成」の視点で考えると、受け身の姿勢ではなく「自主的」「主体的」に周りへ働きかける態度を養いたいと考えます。

そのために必要なことは「気付く力」ではないかと思います。学校や学級で、問題になっていることや困っている人に気付き、「なんとかしたい」「助けてあげたい」という方向に心が動かないと解決には至りません。気付くことが課題解決のスタートと考えます。そして、学級活動や生徒会活動をとおして、みんなが快く過ごすためには何が必要か、何をしたらよいかを仲間とともに考え、行動していく機会を設けることで、「自主的」「主体的」に周りへ働きかける態度の育成、つまりは「進んで働く生徒」の育成につながると考えます。

後期生徒会執行部が、「十三の日」と題した活動を設定しました。執行部が中心となり、何をするか自分たちで考え、毎月13日の朝に自主的に行う活動です。自分たちで活動を企画し、実行するという生徒会の試みを大変うれしく思います。11月と12月は、生徒玄関周辺の通常の清掃では手が行き届かないところの清掃を行いました。まだ始まったばかりですが、今後、生徒たちがどのような活動を実践していくのかを楽しみにしています。そして、このような活動が、生徒の気付く力を養い、「進んで働く生徒」の育成につながっていくことを願っています。

活動の様子は学校のホームページで紹介しますので、保護者の皆様にも興味をもって見ていただければ幸いです。



〔十三の日〕

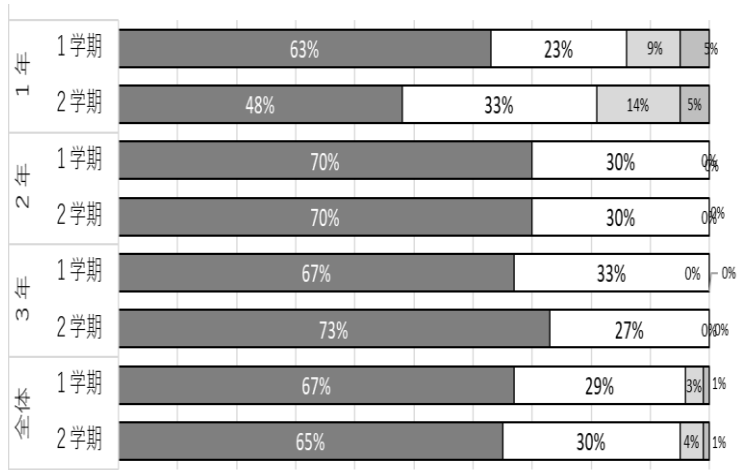
◆◆◆ 2学期のアクションプランの取組について ◆◆◆

アクションプラン1 主体的に学ぶ生徒の育成

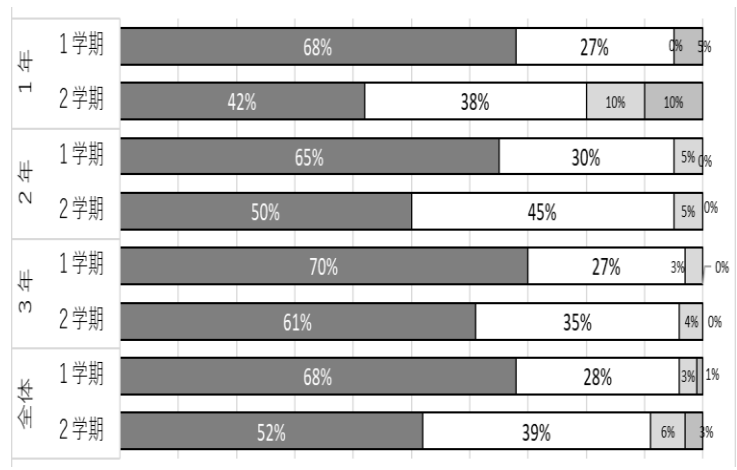
アクションプラン1のキーワードは、「主体的に学ぶ生徒の育成」です。生徒の課題意識を高める工夫をし、タブレット端末等のICTを活用しながら、互いの考えを共有し対話する授業実践にも取り組みました。しかし、1年生は、学習内容が難しくなったこともあり、1学期に比べ「分かった」「できた」と実感できた生徒の割合が下がっています。また、どの学年も学び合いを通して考えを深めたり広げたりすることが「よくできた」と答える生徒の割合が下がっています。1学期に比べ、自分を客観的にみることができるようになった生徒が増えたことも一因と考えられますが、3学期は一人一人のつまずきに寄り添いながら支援するとともに、教師自身が学ぶ続ける時勢を忘れず、授業改善に努めていきたいと思っています。

【学校評価アンケート(生徒)の結果】

1 授業では、学び合いを通して「分かった」「できた」と実感できた。



2 授業では、友達の意見や考えを聞いて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた。



4: よくできた 3: だいたいできた 2: あまりできなかった 1: 全くできなかった



〔1年総合〕



〔2年数学〕



〔3年国語〕

アクションプラン2 認め合い、高め合う生徒の育成

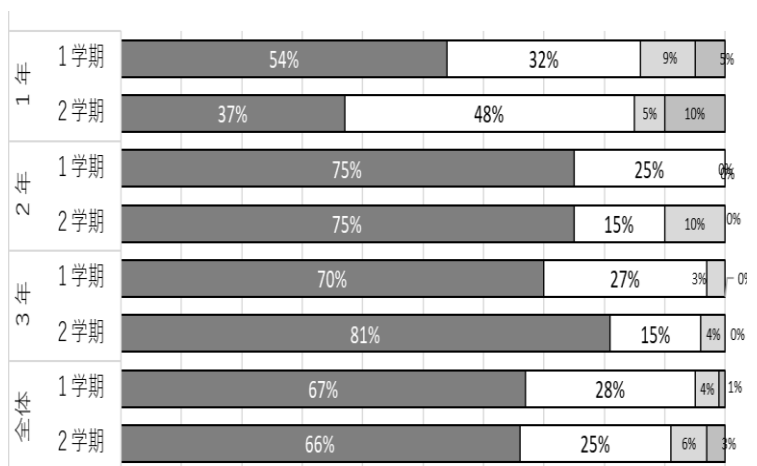
アクションプラン2のキーワードは「認め合い、高め合う生徒の育成」です。2学期は運動会や文化活動発表会等の学校行事を通して、友達や自分自身のよさを再発見する機会が多くありました。また、生徒会の中心が3年生から2年生へと引き継がれ、「清(きよらか)」のテーマのもと、一人一人がさわやかに学校生活を送れるよう、執行部が中心となって新たな活動にも取り組んでいます。今後も様々な体験活動を通して、認め合い高め合う集団づくりを目指していきます。



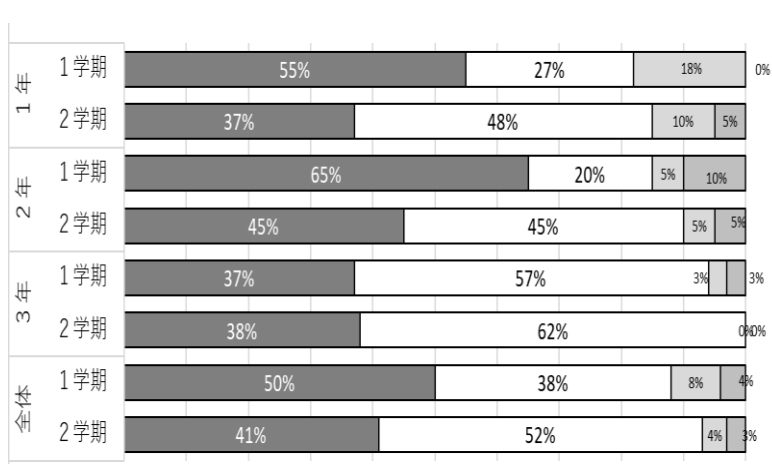
〔生徒総会〕

【学校評価アンケート(生徒)の結果】

3 友達や集団のために自分ができることを進んで実践できた。



4 自分にはよいところがあると思うことができた。



4: よくできた 3: だいたいできた 2: あまりできなかった 1: 全くできなかった